

行雲流水

No. 3 4 7 令和5年10月17日発行

3年生としてのプライド

校長 寒河江 正人

「△△△立候補の〇〇〇で一す。」

「清き一票をよろしくお願いしまーす。」

毎朝、**元気な声**が玄関前の広場に響いている。

生徒会のリーダーを目指す**新人候補の姿**は、爽やかだ。

3年生諸君、

自分たちがリードしてきた生徒会活動の「**後継候補者の姿**」を目の当たりにして、
きっと、**うれしく頼もしく**感じていることだろう。

君たちの生徒会を**引き継ごうとする後輩たち**がいる。

ところで、**1年前の自分自身**を思い出して欲しい。

生徒会長さん、副会長さん、専門委員長さん。

そして、リーダーを支える**フォロアーとしての3年生一人ひとり。**

リーダーとして、

どんな「**公約**」を掲げて、生徒一人ひとりからの「**信頼の一票**」を託されたのか。

その「**公約**」は、達成できたのか。

リーダーの責任として、その「公約」を達成すべく、最善を尽くしたのか。

フォロアーとして、

どんな「**公約**」を信じて、「**信頼の一票**」を投じたのか。

フォロアーの責任として、胸を張って「すべて、やりきった。」と言えるか。

もし、まだ**やりのこしたことがある**のであれば、

どんなに小さな仕事でもいい。どんなに目立たない仕事でもいい。

誰にも気付かれなくたっていい。たとえひとりでもいい。

残された時間で「**やりきるべきこと**」があるはずだ。

それが、

本校の歴史「**30年目の節目**」の生徒会を支えてきた「**3年生としてのプライド**」であろう。